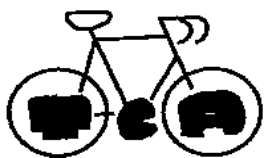


TCAの合言葉 ①自転車で風を追いかけよう②健康と友情の輪をひろげよう③道と自然と文化に親しもう



TCA ニュース

= 2010年 12月発行 = 【No. 240】

発行 東京サイクリング協会 広報委員会

<http://tokyo-cycling.web.infoseek.co.jp> 〒104-0061 中央区銀座7-15-11-1201 Tel・Fax 03-3541-6540

サイクリストの五楽 ①輪楽・自転車を楽しむ ②行楽・旅を楽しむ ③道楽・道を楽しむ ④友楽・友と楽しむ ⑤遊楽・遊びを楽しむ



秋の一泊ラン「檜原村・橋本旅館」

《 2010年11月20日(土) ~ 21日(日) 》



橋本旅館の前でいつもの記念撮影

2000年に実施して以来、10年ぶりに檜原村橋本旅館へ集合する秋の一泊ランを実施した。11/20(土)に集まったのは17名。各人(敬称略)の行動を追ってみました。

【11月20日】

- 飯川は、自宅(南葛西)から自走して14:30に旅館へ到着。最も遠方からの参加で本日の走行距離(74km)。
- 田淵・松本は、大田区から多摩川サイクリングロードを自走して、田淵は13:00旅館に到着(50km)。田中は品川区から同様のルートで15:00に到着(60km)。
- 内田は、立川から自走で羽村駅へ9:30、加藤・中村は、神田から電車で10:00前に羽村駅に到着。羽村駅に集合したメンバーは、加藤・河野・中村・内田・高橋・中西・岩佐の7名。このうち加藤・中村・内田の3名は、まいまいず井戸・羽村市郷土博物館・大悲願寺を見学の後、武蔵五日市駅で松本と合流。
- 鈴木は、八王子から自走し、十里木付近走行中に内田の大悲願寺からの電話により武蔵五日市

駅へ戻って合流し、5名で近くの蕎麦屋で昼食。14:30旅館に到着。

走行距離（内田30km、加藤・中村20km、松本60km、鈴木30km）。

- 野澤は、駒込より武蔵五日市駅まで輪行して15:00スタート、15:25に到着。(8.7km)
- 石黒・箭内は、一緒に車で15:30旅館に到着。
- 高橋・河野・中西・岩佐は、羽村駅を10:30にスタートし、多摩川を奥多摩湖まで遡り、途中奥多摩駅で昼食。13:30深山橋から奥多摩周遊道路を走行。
- 北川・山本は、奥多摩駅を10:30にスタートし『奥多摩むかしみち』を登って青目立不動で昼食に蕎麦を食べる。13:45深山橋にいた高橋と電話連絡をとる。14:45三頭橋(0km)から奥多摩周遊道路を走行。以下、時系列で記述する。
 - 15:00 高橋・中西が月夜見第二駐車場に到着、16:00に4人が揃い下り始める。
 - 16:00 月夜見第一駐車場直前(9km)で北川・磯部とメール交信。
 - 16:30 月夜見第二駐車場(10.8km)で暫く山本を待つが風張峠まで先行する。
 - 16:45 高橋より電話連絡あり、中西と同行。河野・岩佐は遅れている。
 - 16:45 北川が風張峠(都内道路最高地点1146m、12.5km)に到着し山本を待つが、ソフトバンク携帯が圏外で連絡が取れないので17:00に下り始める。
 - 16:50 岩佐より下っている途中との電話あり。
 - 17:10 高橋・中西が旅館に到着する。走行距離(75km)。
 - 17:15 北川から数馬より公衆電話で連絡あり、山本が遅れているので車の手配。
 - 17:40 河野より電話連絡、岩佐と同行とのこと。
 - 17:45 石黒・内田が旅館から車で出発。
 - 17:50 河野・岩佐が車と対面。
 - 18:00 北川が出畑で車と対面。
 - 18:05 旅館で食卓につき始める。
 - 18:10 河野・岩佐が旅館に到着、直後に北川も到着。走行距離(河野・岩佐75km、北川58km)。
 - 18:15 山本が数馬付近で車と対面、車に乗って旅館に向かう。
 - 18:40 山本と車が旅館に到着。
 - 18:50 全員がそろい改めて乾杯。夕食後、二階の201号室で歓談。



風張峠に立つ標柱

【11月21日】

- 河野・飯川・野澤・高橋・中西は、旅館で昼食のおにぎり3個を受け取る。
- 河野・飯川の2名(合計年齢143歳)が鶴峠へ向けて8:40出発。上川乗で高橋・中西が追いつき甲武トンネルへ。二人と猪丸で別れ鶴峠へ。奥多摩湖でコーヒー休憩、奥多摩駅15:26発の電車で帰宅。走行距離(57km)。
- 高橋・中西は、相模湖・津久井湖経由で自走により17時過ぎに帰宅。距離(125km)。
- 田淵・松本・田中は、9:00出発。睦橋通り経由で多摩川サイクリングロードを中央高速鉄橋(10:30)まで自走。

松本は二人と別れて南武線矢川駅から平間駅まで輪行の後、多摩川サイクリングロードを自走で12:30帰宅。走行距離(36km)。

田淵・田中は、各々のペースで多摩川を下り、田中が12:30帰宅。走行距離(43km)。
- 加藤・中村・北川・内田・野澤・岩佐・箭内・鈴木・山本は、払沢の滝へ行き十里木から秋川北岸を武蔵五日市駅へ向かう。石黒は車で『日の出山荘』へ先行。
- 加藤・中村が、武蔵五日市駅から輪行利用で帰宅。ここまでの走行距離(12km)。
- 内田・鈴木は、自走で川口川沿いに走行し浅川合流付近で別れて帰宅。(40, 30km)
- 石黒・箭内は、武蔵五日市駅から車で出発。
- 北川・野澤・岩佐・山本は、平井川に沿って拝島駅まで走行距離(28km)。昼食後三人が電車で帰宅(東京駅15:30)。

野澤は、拝島駅から五日市街道を砂川、上水本町、小金井～田無(15:45)～保谷、谷原(目白通り、千川通り、明治通り、北本通り)経由で駒込17:10帰着。走行距離(70km)。

「奥多摩むかしみち」を登って

TCA会員 山本 雅通

朝10時頃、奥多摩駅からむかしみち（旧青梅街道）に向けてスタート。

先ず駅前の商店でパンを2つとチーズかまぼこ・ポカリスエットを買う。

むかしみちの入口、さあこれからハイキングコース10kmどうなるか？



むかしみち案内板

まっすぐにいきなり300m位の急な上り坂。正面に杉の木と看板があるので見に行き、そのまま登る。登りきったところで間違いに気づき入口に戻る。正しくは入口から10mほどで左に入る。再スタート、路面は10cm位の間隔で滑り止めの溝を切ったコンクリート舗装の急な登りの羽黒坂。この辺りに羽黒神社があるはずだが鳥居の先の奥。

この道は、小河内ダム建設のために資材を運搬した道らしい。

子供の頃、ダムを造る、造らないで問題になっていたことを思い出しながら登っていくと、運搬を目的とした線路の一部が残っていました。

2・3年前に、テレビ番組で鉄道(たぶんトロッコの線路)の復元を何回かに分けて放映していたのを思い出す。

谷渡りの線路とその先のトンネルまで、ちゃんと残っていました。

また、緩やかな登り。ちょっと平らな所に大きなイチョウの木、路面に落葉がビツシリ黄金色に敷き詰められている。そこをすんなり通過。上がるにつれて紅葉がすすんでいくのがわかります。

ちょっと広い所に出ました。前方に大きな槐(さいかち)の巨木があり、ここは昔、街道を行き来する人々が休憩場所としたところで、槐木(さいかちぎ)の地名の由縁。



線路跡



槐木

ここは、紅葉のピークを過ぎてているのかな？

このあたりから自転車に乗ったり歩いたり。行きかう人達に「こんにちは」と挨拶をしながら、ハイカーの視線を感じながら、ほとんどのハイカーが好意的でした。

馬頭観音で合掌。不動の上の滝の不動尊で拍手、北川さんに「ここは、お不動さん、神社じゃありません」ああいけねえ、そして一礼。

各所に説明の立て看板が、ちょっと走ると直ぐに出てきます。説明書きを読んでいるのに時間を取られます。

さらに、少し上がると白髭神社。立て看板を見ているとハイカーの人達に「細いタイヤで良く来たね」と聞かれ、「そう、これからダムに出てから平らな10km、上り10km、下り20kmで檜原村へ行くから細いタイヤで来たの」ハイカーは、あきれた顔をしていました。

そこから、ちょっと下ったら弁慶の腕ぬき岩。高さ3m横1.5mくらいの岩ですが、腕がすっぽり入る穴が開いている。弁慶が開けた穴だと言われている様で、本当に弁慶がこんなところに来たのかな？

また少し走ると耳神様が、そこに穴の空いた石を供えると耳が良くなるそうです。穴の空いた石を探してみたのですが見当たらなかった残念。ああそうだ、未だ自分は耳が聞こえなかった。

少し走ると「いろはにほへと」のいろは楓の紅葉が開けて、



弁慶の腕ぬき岩

太くて大きい楓が2~3本。上の方は真っ赤に紅葉していて下は緑の葉で、そのコントラストが良く又その周りに小さな楓が真っ赤に光に当たっていました。すばらしい、心が洗われるようでした。

道案内を見逃すと大変。自転車をかついで階段をヒューヒュー言いながら登ると、現地の人に、行き止まりだと言われ、間違い、残念。そういえば下に見晴台と看板があった。間違い2度目。

しだら橋の吊橋に出ました。「5人以上で渡らないで下さい。」先は行き止まり、下は溪谷で絶景です。吊橋を過ぎると、そのあたりから地道が多くなり紅葉もすばらしく。

次に縁結びの地藏尊があり二股大根を供えて願掛けすると願いが叶うと言うお地藏さんです。

二股大根などそう簡単に手に入らない。もう縁結びは考えていないので、でも、もしかしてなんて。「ドキッ」



地道を進む

完全にサイクリングというよりハイカーになりきっているように感じています。

また少し乗れるようになり馬の水のみ場に来た。ちょっと広い場所で馬に水、人間は一服したようです。三軒の茶店があったそうな、そういえば自分も少し腹がへってきた。

次にも又お地藏さん。この地藏さんは加藤先生も真っ青のお地藏さんです。煎った豆を供えると虫歯が治るといって「虫歯地藏」。

次に二つめの吊橋の道所橋で少し前に出会った女性ハイカーと会った、ハイカーと同じスピード。一緒に溪谷を眺めながら感激。

さらに自転車に乗りながら下を見ると、だいぶ下に国道が通っています。また少し行くと70~80cmくらい幅の地道だけど左側は50~60mのガケ。ハンドルをちょっと間違えるとまさかさま「わー怖い、滑り落ちそう。」

舗装された道に出て、ちょっと急坂を過ぎて真っ直ぐトンネルを抜けると国道411号の中山トンネル、左へ行くと山道。

北川さんから「どっちへ行く？」と聞かれ山道を選択。これがすごい。自転車を押し歩き、道はゴロゴロ石。しばらく上がると小河内ダムの壁が見えてくる。だんだんその壁が下に見えてきて杉林に入る。

自転車も押して行くのが無理になり、かつぎに入る所が多くなる。急な石段、もうかついで石段を上るのがいやになり横の道に行く、これが間違い。どんどん細くなり不安になる。5~6m上に道があるので自転車をかついで直登。もうかつげなくなり、自転車を先に上げて自転車を杖にして上がる。最後は先に上がった北川さんに引っ張り上げてもらって登頂。

今回は、サイクリング・ハイキング・登山をクリアーして青目立不動堂に着く。入場料100円を払い、隣の蕎麦屋さんで奥多摩湖を下に見ながら辛い大根の入った蕎麦を食べる。絶景です。隣にいた中年の女性二人と話が合い「どこへ行くのですか？」と聞く。「峠を越えて五日市へ車で」「そうですか、私達と同じコースですね我々は自転車で檜原村まで」。峠は、あの山かな？

山道を自転車で下りバス停で「むかしみち」は終わり。

今度来る時は、穴の空いた石・二股大根・煎り豆を持って来るかな。



青目立不動への登り



奥多摩湖を下に見る

注)ルート公開 <http://latlonglab.yahoo.co.jp/route/watch?id=51a7c020eaefd3be30738801ad11c009>

【11月末現在 会員数409名】